

国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校 学校関係者評価結果評価委員会における指摘事項等

実施日時：平成30年12月4日（火） 10：00～12：00

実施場所：国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校 第1ミーティングルーム

参加者：株式会社柳都アーティストファーム ライブハウス館長 松本和良
音響家（フリーランス） 荻原政之
作曲家（フリーランス） 山崎亮
卒業生 佐藤和音
卒業生 杉本千尋
卒業生 大野知世
卒業生 永島麻耶
学校長 田中良
教務部長 山本雄太
事務局 石崎紀子
事務局 田中史歩

《学校および教育について》

～評価すべき点～

- ・新潟県の多くのイベントで生徒たちがインターンシップなどで活躍している状況は、新潟の音楽文化発展に大きく寄与している。
- ・多くの音楽関係者による特別授業を設定し、また生徒との名刺交換を実施するなど、社会人マナーを身に付ける場としても活用され、高く評価する。
- ・マナーやルールを徹底することは人間性育成にプラスになっている。
- ・新潟県の音楽系企業への専門職就職については概ね良好であり、現場で卒業生が活躍していることは、新潟県の音楽文化発展に大きく寄与している。

～改善が必要な点～

- ・アーティストやミュージシャンになる漠然とした目標を、もっと明確にプランニングにする必要があるだろう。
- ・音楽系に特化した学校ゆえに、検定や国家資格の合格のような明確な評価基準が設定しにくいであろう。しかし、学生や社会にとっては重要なことで、評価基準を詳細に構築し、公表すべきである。
- ・卒業生の動向が十分に把握されていない。離職率が問題になっている今、最低でも卒業後5年はコンタクトを取りつつ動向の把握に努める必要があるだろう。